

作物の生産性向上のために！ 「農業機械を活用した土づくり」

○近年、異常気象が続いており、米の生産性向上(収量確保・1等米比率の向上)に向けて、総合的な「土づくり(圃場づくり)」の重要性が見直されています。
○特に「土づくり(圃場づくり)」の重要な要素である「透水性・排水性の確保」と「稲わらの有効活用および作土深の確保」に有効な農業機械を紹介します。

排水性・透水性の確保



<サブソイラ>



<カットブレーカー>



<モミサブロー>

- 水田の透・排水性を確保し、土壌を乾かすことで土中に酸素を供給し、微生物の活性化を促す。
- 水をコントロールしやすい圃場を作り、酸素を含んだ水を供給することで根の活力が高まり、根腐れなど湿害防止の効果が見込める。
- 作業深さ:30~45cm(暗渠機能の回復)
- 土質や目的により、「サブソイラ」「カットブレーカー」「モミサブロー」など多様な機械を使い分ける。

導入の効果

土づくり(圃場づくり)により、**収量アップと1等米比率向上** が期待できます。

稲わらの有効活用と作土深の確保



<スタブルカルチ>



<ディスクティーラー>

- 秋の粗耕起により、微生物による稲わら等の腐熟が促進され、「ケイ酸」等を有効活用することが可能。(秋耕はメタンなど温室効果ガス削減にもつながる。)
- 作業深さ10~30cmとロータリーよりも耕深15cmを確保しやすい。(根域が拡大し、根の活力が向上)
- 作業速度が速い(4~7km/h)ため、忙しい秋でも「すき込み作業」に余裕が生まれる。
また、ロータリー耕前の粗耕起により、ロータリー爪の摩耗を軽減する。



ディスクティーラーを使った高速耕起の様子を紹介！

